2022年2月27日 川越教会

丸山　勉

熱情の神

［マルコによる福音書11章12～23節]

翌日、一行がベタニアを出るとき、イエスは空腹を覚えられた。そこで、葉の茂ったいちじくの木を遠くから見て、実がなってはいないかと近寄られたが、葉のほかは何もなかった。いちじくの季節ではなかったからである。イエスはその木に向かって、「今から後いつまでも、お前から実を食べる者がないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。それから、一行はエルサレムに来た。イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いしていた人々を追い出し始め、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けをひっくり返された。また、境内を通って物を運ぶこともお許しにならなかった。そして、人々に教えて言われた。

「こう書いてあるではないか。『わたしの家は、すべての国の人の 祈りの家と呼ばれるべきである。』 ところが、あなたたちは それを強盗の巣にしてしまった。」

祭司長たちや律法学者たちはこれを聞いて、イエスをどのようにして殺そうかと謀った。群衆が皆その教えに打たれていたので、彼らはイエスを恐れたからである。夕方になると、イエスは弟子たちと都の外に出て行かれた。翌朝早く、一行は通りがかりに、あのいちじくの木が根元から枯れているのを見た。そこで、ペトロは思い出してイエスに言った。「先生、御覧ください。あなたが呪われたいちじくの木が、枯れています。」そこで、イエスは言われた。「神を信じなさい。はっきり言っておく。だれでもこの山に向かい、『立ち上がって、海に飛び込め』と言い、少しも疑わず、自分の言うとおりになると信じるならば、そのとおりになる。

1. 悔いる神様？

旧約聖書の創世記の中に「主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのをご覧になって、地上に人を作ったことを後悔し、心を傷められた」（6:5）という言葉があります。聖書の中でも一番恐ろしい言葉かもしれません。そこから「ノアの方舟」の話（地上に造られた生き物をすべてぬぐい去ろうとする話）が始まるわけです。私たちは思うことがあるかもしれません。神様は愛のお方ではないのか、赦しのお方ではないのか、そんな激しい神様は馴染みにくい。旧約聖書の神様は恐い。新約聖書の優しいイエス様の方が安心できる、と。

確かに旧約聖書からは、おおらかで超然としている神様というよりは、「裁き」をなす神様の姿、或いは感情的に思えてしまうような神様の姿が印象に強く残るということがあると思います。神学の歴史の中でも、キリスト教は旧約聖書は不要なのではないかと主張する人もあったのですね。けれどもそれは誤りでした。確かにメシア（救い主）はイエス・キリストただお一人です。けれども主イエス様は旧約聖書の歴史と無関係に現れた方ではありません。今、木曜日の祈り会で旧約のレビ記をご一緒に読んでいますが、「ああ、このことが新約聖書とつながっているのだ、この出来事がイエス様の十字架の贖いとなっていくのだ」と、立体的に聞こえてくることがあって、とても良い時間になっていると思います。

1. すべての民の祈りの家

今日の聖書の箇所 （マルコ福音書11:12以下）も、私たちが普通に思い描く優しいイエス様像からすると、違和感を感じる箇所だと思います。「実のならないいちじくの木を呪う」イエス様とか、エルサレム神殿の境内で、両替の便宜を図ってくれる人の台や、鳩を売る商売人の腰掛を引っくり返す、言ってみれば「キレた」イエス様の姿があります。

正直あまり見たいないイエス様の姿ですね。ただ、今私は「正直見たくない」と言いましたし、もしかしたら皆さんもそう思われるかも知れませんけれども、それこそが問題なのかもしれません。つまり、イエス様を、或いは神様を自分の都合の良いように引き寄せてしまう私たちの心の問題です。

今日のイエス様の取られた行動は、なかなか理解し難いことだと思います。理屈では説明が出来るのかもしれませんが、それで良いのかなと私は思ってしまいます。納得出来れば聖書が分かったことになるのかと言うとそうではないでしょう。人間もそうですよね。完全な理解は難しい。いや出来ないでしょう。その時その時のその人と出会って行く。その人の心に何とか聞こうとしてゆく。それが大事なのではないでしょうか。私たちは感情を持つ生き物。ロボットではないのです。神の子イエス様も、全き神であると同時に、全き人間であるのです。

いちじくの木の中に実を発見出来ず、今後はもうお前から実を食べるものがないようになどとイエス様は仰り、実際翌日になるとそのいちじくの木は枯れていたという話は、マルコ福音書では、「神殿から商人を追い出す」という話を挟みこむようにして記されています。恐らくですが、この「神殿とは何か」「神様を礼拝する場所・礼拝する心とは何か」という問題と絡めながら記している、暗示しているような気が致します。従来からの解釈では「いちじく」とはユダヤ民族全般を指し、その神様の民とされた、つまり救い出された民がむしろ救って下さった神様を無視するような生活（実を実らせない生活）を指摘していると言われています。そうかもしれません。ただイエス様のこの裁きの言葉は違和感が残ります。更に違和感を覚えるのは、この神殿の境内での怒りに満ちたイエス様の行動です。神殿で商売をするということ自体が問題ということなのでしょうか。そう単純ではなさそうです。「両替」というのは、カイザルの肖像画が刻まれているローマ硬貨からユダヤの硬貨への交換で、ユダヤの神殿に献金をするその便宜を図るサービスです。また鳩を売るというのは、貧しい者たちの供え物を買いやすくするためのサービスです。それで私腹を肥やす人がいて、それにイエス様は怒られたのだろうという解釈もありますが、イエス様のこのあとの言葉を読んでみると、一部の人たちに向けて怒りを現したのではないように思いました。17節から読んでみます。

＜そして、人々に教えて言われた。「こう書いてあるではないか。『わたしの家は、すべての国の人の 祈りの家と呼ばれるべきである。』 ところが、あなたたちは それを強盗の巣にしてしまった。」＞

この『わたしの家は、すべての国の人の 祈りの家と呼ばれるべきである』は旧約聖書イザヤ書56章7節の言葉です。「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる」とあります。「すべての民」そして「すべての国」です。ここでは既に民族主義的信仰は超越されています。ユダヤ人の選びというのは救いのモデルケースであったかもしれませんが、そこを出発点として救いの歴史は進展しているのです。人の不信仰で神様は世界を滅ぼされるのではなく、むしろユダヤ人の躓きを通して、かえって忍耐されて、すべての人に救いが及ぶ方法をお取りになられたのです。あのノアの方舟の話も既にそのことを暗示していますよね。

1. イエス様の熱情は私たちのため

先のイエス様の言葉の中で注目したいのは、「強盗の巣にしてしまった」ということです。礼拝の場が、強盗の住みかになってしまってると。強盗。何が盗まれているのでしょうか？人間が盗まれている。イエス様はそう思われたのではないでしょうか。この神殿にあるのは「祈り」ではなかった。単なる「宗教儀式」のルーティーンになってしまっていた。「形骸化」と言っても良いでしょう。そしてそれは、神様に造られた人間が‟失われていく”ことに映ったのではないでしょうか。もしかしたら、既に教会生活に慣れてしまっているクリスチャンほど危ないのかもしれません。牧師自身、いつもその誘惑にさらされています。

ある地方の小さな教会の牧師の文章が私の心に深く響きました。このコロナ危機が始まり、緊急事態宣言が出た時、一度は中止を考えたが思い直し、この惨禍の只中でも礼拝中止はしないという決断の一文です。

**「緊急事態宣言が出て一旦礼拝の中止を決めていたが、この災禍のさ中で礼拝なしというのは抵抗がある。****礼拝をして生き抜くというのが教会ではないか。思い直して限定礼拝として敢行することとする。出席者は4人。教会生活54年と1ケ月の中で最小の礼拝と思う。頌栄2曲の他は讃美歌省略。45分で終る。晴れやかに会堂を出る。空は青空、山は一面の青葉若葉。」**2020年

春の週報の言葉です。

　「礼拝をして生き抜くというのが教会ではないか。」これがズーンときますね。皆さん、律法的に聞いて頂きたくないのですが、「礼拝」よりも大事な時間はないのではないでしょうか。勿論様々なご事情で礼拝に参加できない理由を私たちは持つことがあると思います。それでも、自分にとっての主との交わり、礼拝とは何なのかを考えて日曜日を過ごして頂きたいと思います。可能であればこの「祈りの家」に来て欲しい。ZOOM配信も出来る時代です。一緒に心を合わせたい。私たちは弱いものですから、いつの間にか巧妙な誘惑にかすめ取られて、それこそ強盗に心を持って行ってしまわれるかもしれない。川越教会は、もしもですよ、イエス様がもう実をつけるな、とおっしゃったら枯れ果ててしまうでしょう。でもそうではない。神様は熱情の神様です！イエス様は熱いのです！私たちがサタンの手に引っ張られて行かないために、十字架の上で両手を広げ、阻止して下さり、私たちを奪還して下さったのです！私たちは神様のもの、神様の民です。強い愛の御手で、私たちは大きな救いの中に既に入れられているのです。

　最後に、招きの聖句で読んで頂いた申命記7章6節以下の言葉をお読みしてお祈りしたいと思います。

「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。」

お祈り致します。　神様、この朝、ご一緒に礼拝を捧げられましたことを感謝致します。礼拝において、また共にあなたの言葉を聞くことによって私たちは自分自身を取り戻すことが出来ますように。今、世界が混乱し、危機的な状況にあります。驕りを砕き、真の平和に導かれますように。今週手術を控えている私たちの仲間がおります。主が共におられて良き手術がなされますようにお守り下さい。今週のお一人ひとりの歩みを支え、祝福して下さいますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。